

「光る！半月キーホルダー (4)」

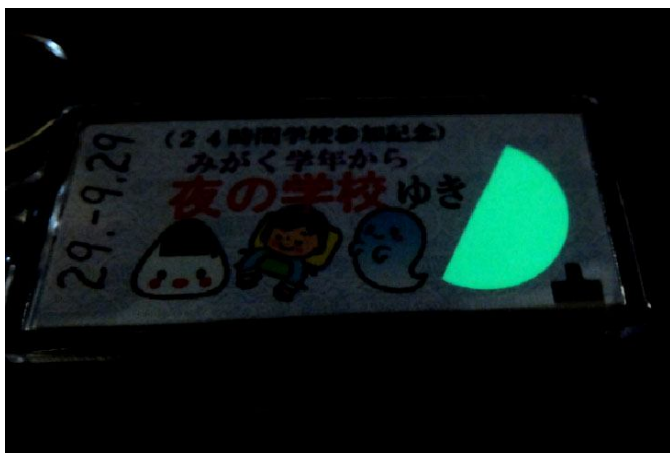
お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

(9) 緑に光る半月

子どもたちが歓声をあげていた、「光る半月」とはどんな風に見えるものなのだろうか？これは、本当に暗い場所で実験すると効果的である。



キーホルダーの「月のシール」部分に、懐中電灯やLED灯で20秒ほど光を当てる。

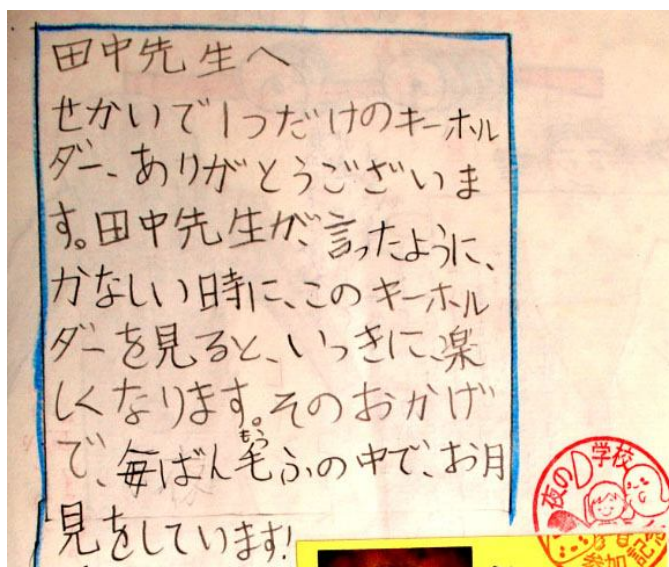


灯火を消したあとの様子は、こんな感じだ。蓄光シートの半月の光は、最初は強く、キーホルダーの透明アクリル全体に反射して、きっぷ全体を照らしている。光は徐々に減衰してゆくが、帰宅後に試した子どもの話では、「4時間も光り続けていた」ということだ。

(10) 絵日記に見る「かなしい時」

この「光るキーホルダー」は、その日のうちに持ち帰らせ、家で使うように伝えておいた。「寝る時におふとんの中で見ると、おふとんの中で月見ができるよ。特に悲しい時には試してみてね」と、変な話もし

ておいた。こういう教師のセリフは、意外にも子どもの心に残るものである。何日かたって、ある子どもからこんな絵日記が提出された。



私は「毛布の中でお月見ができてよかったね。またみんなでお月見をしたいですね。」と返事を書き、この子どもの「かなしい時」の原因は聞かなかった。この子どもが「毛布の中で見た半月」はきっとこんな感じだったにちがいない。



(11) 教師が一生懸命になるということ

私の蓄光素材の実験に始まり、結局「光るキーホルダー」を作って終わった。いずれも、理科の単元とは直接結びつかない活動だ。しかし、子どもというのは、教師が一生懸命になると、かならずそれを心に響かせて、何かしらの学びをしてくれるものだ。それが「飽くなき教材研究」の原動力になっているのだと思う。